

# ひょうご水素社会推進会議の 主な意見と対応方針

令和8年1月8日

兵庫県企画部総合政策課

## (1) 語句の統一、適正化等

### < 語句の統一 >

- ・ 液化水素と液体水素、大型水素ST、大規模水素ST などのゆらぎの統一
- ・ 企業名記載の統一

### < 用語の適正化 >

- ・ グリーンスチール→GXスチール（鉄鋼連盟の表記）
- ・ 水素吸蔵合金→水素吸蔵材料（MOFも含めた表現に）

### < 専門用語・短縮語 >

- ・ 極力使わない、使用する場合は注記を 等



### 【対応方針】

ご意見を踏まえ修正

## (2) ストーリーや研究開発事例の充実等

### <全般>

- ・ストーリー形式での紹介は、県民の関心を引く形になっている
- ・水素社会の実現に向けた課題の整理の追記でリアリティが増すと思われる

### <ストーリーの追加>

- ・基地が整備されるまでの物語があれば、供給面が示されリアリティが増す
- ・市民生活に身近な物語を追加してはどうか（登場人物 小学生など、場面 学校など）

### <ストーリーの充実>

- ・パイプライン、コジェネレーションシステムの排熱利用
- ・海水を用いた水電解装置
- ・農業残さ等のバイオ活用

### <研究開発事例の適正化>

- ・水素エネルギー共同研究センター、高砂水素パーク 等



### 【対応方針】

ご意見を踏まえ、可能な範囲で対応

- ・読みやすさを考慮し、構想掲載のストーリーは5つとする
- ・2050年の水素活用や現在の開発状況は、重複のないように各ストーリーに配置
- ・県内の事例を優先的に記載

## <全般>

- ・ e-メタン需要量と水素需要量の関係性を明記（内数か外数か）

## <推計手法（参考資料編）>

- ・ CNP計画の水素需要量との違い（対象、用途等）が分かるように工夫することで、理解が深まり納得感が高まる

## <語句の適正化>

- ・ 空港・鉄道・船舶の水素需要量を推計しない理由の適正化（燃料の脱炭素化は意味がないと誤解される可能性）
- ・ 還元製鉄→製鉄プロセス（高炉への水素吹込み等あり）
- ・ 混焼発電開始→混焼発電本格化（2025年に実証を開始している） 等

## 【対応方針】

ご意見を踏まえ、修正



## <全般>

- ・ 臨海部の海外大規模サプライチェーン及び内陸部の地産地消モデルは兵庫県の強みを捉えた整理となっている
- ・ 展望を実現するための県としての施策の方向性があれば実効性の高い構想と映る
- ・ LNG受入れ拠点の存在が強みであり、既存施設を使えるe-メタンも記載すべき
- ・ バイオメタネーションは、生ごみなどの地域資源を活かした地産地消型サプライチェーンモデル  
等



## 【対応方針】

ご意見を踏まえ、修正・別章に記載